

エコアクション21

【環境経営レポート】 11版

(対象期間 : 2023年 6月 1日~2024年 5月31日)



発行日 : 2024年 7月 4日



美しい地球の環境と資源を未来に伝えたい

(株) 江川組



目 次

1 .	代表者挨拶	P1
2 .	組織の概要	P2 ~P3
3 .	許可・登録の内容	P3
4 .	主な環境負荷の実績	P3
5 .	実施体制	P4
6 .	短期環境経営目標及びその実績	P5
7 .	中期環境経営目標	P6
8 .	環境負荷	P7
9 .	環境経営の取り組み計画と評価	P8
10 .	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	P9
11 .	違反、訴訟等の有無	P9
12 .	代表者による全体の評価と見直し	P9

1. ■ごあいさつ

地球温暖化や環境破壊、資源の枯渇等、様々な問題が私たちを取り巻いています。

ゴミ問題にいたっては、最終処分場の確保も難しいのが現状です。

しかし一方ではより快適で便利な生活をしたい……。

この矛盾をはらんだまま、街は拡大化を続けています。

これらの問題を傍観しているわけにはいきません。

私たちは環境保全に取り組むための企業として誕生しました。

この事業が環境保全の一助となり美しい地球の資源を大切に次代まで守り伝えることができると確信しています。

株式会社 江川組
代表取締役 江川信二

環 境 経 営 方 針

【基本理念】

当社、株式会社江川組は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題と認識し、建設業として安全で環境にやさしい事業活動を行い、環境負荷の低減を図るために全社員一丸となって自主的、積極的に環境保全活動に取り組みます。また、継続的に改善していきます。

【環境保全への行動方針】

1. 事業活動に関する環境法規類及びその他の要求事項を遵守します。
2. 省エネルギー活動として、電気及び重機車両の燃料使用量削減を図り二酸化炭素排出量削減に努めます。
3. 節水に努めます。
4. 産業廃棄物の3R(減量・再使用・再生利用)に努めます。
5. コピー用紙の削減に努めます。
6. 地域清掃等の社会貢献活動を積極的に行います。
7. グリーン購入を推進します。
8. SDGsに取り組みます。

制 定 日 : 2013年12月 3日
最終改訂日 : 2024年 7月 4日

株式会社 江川組
代表取締役社長 江川信二

2. ■組織の概要

(1)名称及び代表者

株式会社 江 川 組 代表取締役 社長 江 川 信 二

(2)所在地（対象事業所）

本 社 : 熊本県八代市鏡町両出1324-1

資材置場 : 熊本県八代市鏡町両出1325-5

(3)環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 江川 信二 TEL : 0965-52-2049

担当者 : 稲村 真吾 TEL : 0965-52-2049

(4)事業内容（対象活動）

建設業

（土木工事業、とび・土工工事業、石工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、水道施設工事業、解体工事業、建築工事業）

(5)事業場の規模

設立年月日 : 昭和42年 7月 1日

資本金 : 3, 000万円

売上高 : 149, 377万円(令和4年度)

事業期間 : 6月1日～5月31日

従業員数 : 46名

敷地面積 : 5, 145m²

(6)取得資格名及び有資格者数(令和5年 5月現在)

・ 1級土木施工管理技士 :	18 名	・ 2級建築施工管理技士 :	1 名
・ 2級土木施工管理技士 :	4 名	・ 2級造園施工管理技士 :	1 名
・ 1級舗装施工管理技術者 :	4 名	・ 1級建設業経理事務士 :	1 名
・ 2級舗装施工管理技術者 :	5 名	・ 2級建設業経理事務士 :	3 名
・ のり面施工管理技術者 :	1 名	・ 2級建設機械施工技士 :	1 名
・ グランドアンカー施工管理技士 :	1 名	・ 技術士補(建設部門) :	1 名

(7)車両・重機保有台数

車 種	台 数	備 考
大型重機	10台	バックホウ・タイヤローラー
小型重機	10台	バックホウ・タイヤショベル・ブルドーザー
運搬車	10台	ダンプトラック・運搬車・5tクレーン
営業車・送迎車	39台	乗用車・軽乗用車・軽トラ
合 計	69台	

3. ■許可・登録の内容

許可番号 : 熊本県知事許可(特-3)第00158号

有効期間 : 令和3年 6月20日～令和8年 6月19日

許可番号 : 熊本県知事許可(般-3)第00158号

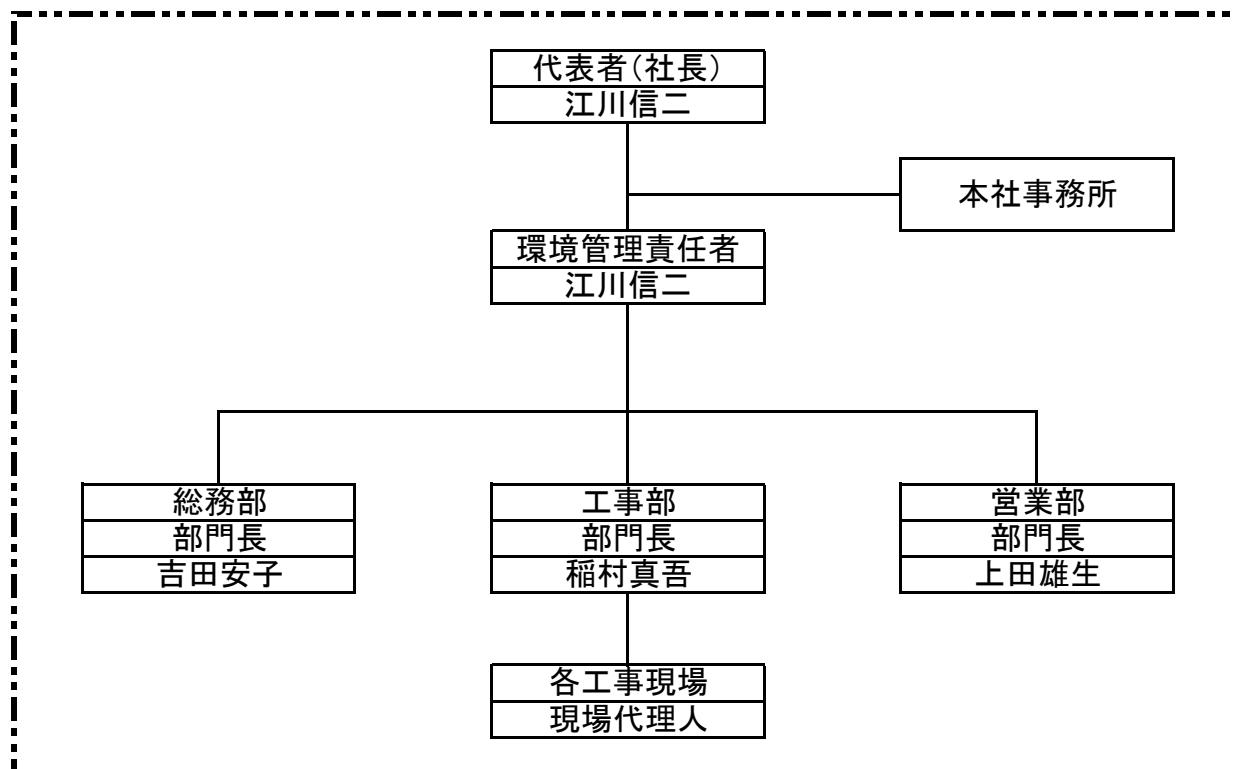
有効期間 : 令和3年 6月20日～令和8年 6月19日

4. ■主な環境負荷の実績

項 目	単 位	2022年度 (2022年6月～2023年5月)	2023年度 (2023年6月～2024年5月)
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	510,332	575,231
二酸化炭素排出量(電力)	kg-CO2	33,258	42,487
二酸化炭素排出量(化石燃料)	kg-CO2	477,074	532,744
購入電力量	kWh	87,062	91,964
化石燃料使用量	L	189,496	210,952
産業廃棄物排出量	t	3,517	5,060
一般廃棄物排出量	kg	374	369
総排水量	m3	411	281

※ 二酸化炭素排出係数(調整後排出係数)は
2022年度九州電力の実績 0.462 kg-CO2/kWh
を使用する。

5. ■実施体制



役 職 名	役割 ・ 責任 ・ 権限
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人材・設備・費用、時間、技能を準備する - 環境責任者を任命 - 環境経営方針の策定・見直し及び全社員へ周知 - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直しを実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の実施状況取りまとめ及び評価 - 環境経営目標・環境経営計画書を作成 - 環境経営活動の実績集計及び取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの作成・確認 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
各部門長	- 自部門における環境経営システムの実施 - 自部門における環境方針の周知 - 自部門の社員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 自部門の特定された緊急事態への対応訓練の実施 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全社員	- 環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的、積極的に環境経営活動へ参加

6. ■ 短期環境経営目標及びその実績

項 目	年 度	2022年度 (6月～5月)	2023年度 (2022年6月～2023年5月)			
	単位	実績	目標	実績	達成率 (%)	判定
完 工 高	万円	149,377	130,000	162,066	125	○
電気の使用量(本社)	kWh	33,242	28,641	34,874	82	×
	kWh／万円	0.2225	0.220	0.2152	102	○
電気の使用量(現場)	行動目標	工期内検査によるCO2削減 ソーラー式保安設備使用によるCO2削減 環境配慮型電子機器の利用によるCO2削減				○
ガソリンの使用量(本社)	L	4,548	3,918	5,009	78	×
	L／万円	0.0304	0.030	0.0309	98	×
ガソリンの使用量(現場)	行動目標	エコドライブ励行によるCO2削減 低燃費車導入によるCO2削減 車両の定期点検によるCO2削減				○
軽油の使用量(現場)	行動目標	アイドリングストップによるCO2削減 重機の点検・整備によるCO2削減 ICT施工の活用によるCO2削減 環境配慮建設機器の利用によるCO2削減				○
灯油の使用量(現場)	行動目標	工程短縮によるCO2削減 機器の点検・整備によるCO2削減				○
プロパンガスの 使用量(本社)	kg	51	44	54	81	×
	kg／百万円	0.0341	0.034	0.0333	101	○
上記二酸化炭素 排出量合計	kg-CO2	510,332	439,691	575,232	76	×
	kg-CO2／万円	3.4164	3.382	3.5494	95	×
一般廃棄物の削減	行動目標	再資源化によるCO2削減 再利用によるCO2削減				○
産業廃棄物の削減	行動目標	残余資材発生抑制によるCO2削減 分別の徹底によるCO2削減 建設廃棄物のリサイクル率99%以上の実施				○
節 水	m3	411	354	281	126	○
	m3／百万円	0.2751	0.272	0.1734	157	○
社会貢献 (年1回)	回	2	2	2	100	○

※目標値は、前年度の完工高当たり使用量を1%程度削減を目標とする。

※完工高は増加を「○」とした。

【 評 価 】

電気及びプロパンガスの使用量は昨年より増加したが完工高当たりの使用量は目標を達成している。

ガソリンの使用量及び完工高当たりの使用量は増加している。これは、営業車の増車によるものとおもわれる。

二酸化炭素排出量合計は、排出量及び完工高当たりの排出量共に増加している。これは、上記及び災害復旧対応により稼働日数が増加したためであり、一時的だと思われる。

水の使用量が大幅に減少しているのは、トイレの漏水が改善したためである。

7. ■ 中期環境経営目標(次年度以降)

項 目	年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	単位	基準	目標	目標	目標
完 工 高	万円	162,066	140,000	135,000	130,000
電気の使用量(本社)	kWh	34,874	29,824	28,472	27,143
	kWh／万円	0.215	0.213	0.211	0.209
電気の使用量(現場)	行動目標	工期内検査によるCO2削減 ソーラー式保安設備使用によるCO2削減 環境配慮型電子機器の利用によるCO2削減			
ガソリンの使用量(本社)	L	5,009	4,284	4,089	3,899
	L／万円	0.0309	0.0306	0.0303	0.0300
ガソリンの使用量(現場)	行動目標	エコドライブ励行によるCO2削減 低燃費車導入によるCO2削減 車両の定期点検によるCO2削減			
軽油の使用量(現場)	行動目標	アイドリングストップによるCO2削減 重機の点検・整備によるCO2削減 ICT施工の活用によるCO2削減 環境配慮建設機器の利用によるCO2削減			
灯油の使用量(現場)	行動目標	工程短縮によるCO2削減 機器の点検・整備によるCO2削減			
プロパンガスの 使用量(本社)	kg	54	46	44	42
	kg／百万円	0.0333	0.0330	0.0327	0.0323
上記二酸化炭素 排出量合計	kg-CO2	575,232	491,943	469,629	447,713
	kg-CO2／万円	3.549	3.514	3.479	3.444
一般廃棄物の削減	行動目標	再資源化によるCO2削減 再利用によるCO2削減			
産業廃棄物の削減	行動目標	残余資材発生抑制によるCO2削減 分別の徹底によるCO2削減 建設廃棄物のリサイクル率99%以上の実施			
節水	m3	281	240	229	219
	m3／百万円	0.173	0.172	0.170	0.168
社会貢献 (年1回)	回	2	2	2	2

※目標値は、前年度の完工高当たり使用量を1%程度削減を目標とする。

8. ■ 環境負荷

項 目			単位	2021年度	2022年度	2023年度	
二酸化炭素排出量	エネルギー消費	購入電力(本社)	kWh	35,656	33,242	34,874	
		建設現場等の購入電力	kWh	66,647	53,820	57,090	
		化石燃料	建設現場等の灯油	L	447	1,314	1,385
			建設現場のA重油	L	0	0	0
			液化石油ガス(LPG)	kg	62	51	54
			建設現場の液化石油ガス(LPG)	kg	0	0	0
			ガソリン	L	4,779	4,548	5,009
			建設現場等のガソリン	L	30,843	40,751	39,415
			軽油	L	744	640	499
	建設現場等の軽油	L	120,348	142,243	164,644		
二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	445,364	510,332	575,232		
廃棄物	一廃	再資源化	kg	225	29	29	
		焼却	kg	350	345	340	
		最終処分	kg	0	0	0	
	産廃	再資源化	t	1,574	3,495	5,016	
		最終処分	t	12	22	44	
水使用量			m3	288	411	281	

■環境負荷取組状況(写真)

安全大会(教育)



重機の点検・整備



ソーラー式保安設備



産業廃棄物の分別



9. ■環境経営活動の取り組み計画と評価

◎:良くてきた ○:ままできた △:あまりできなかった ×:全くできなかった

取 組 計 画	達成状況		評 価 (結果と今後の方向)
	上期 11月末	下期 5月末	
○電力による二酸化炭素排出量の削減			
使用頻度の低い照明は消灯する(使用時のみ)	◎	◎	全体的によくできて いると思われる。今 後も継続が必要であ る。
OA機器は、省電力設定にする	◎	◎	
終業時、パソコン・プリンターの主電源を切る	◎	○	
空調の適正化(夏:28度・冬:21度)	◎	◎	
○重機車両燃料による二酸化炭素排出量の削減			
工事で化石燃料使用に関し創意工夫している	◎	◎	災害復旧対応で意識 が低くなっている。 再度周知が必要であ る。
低燃費車の導入	◎	◎	
効率的なルート走行(不明ルートは調べる)	◎	◎	
エコドライブの励行(加減速・速度を控える)	◎	◎	
タイヤ空気圧の適正化(月1回チェック)	◎	○	
重機・車両整備の励行(月1回チェック)	◎	◎	
重機・車両のアイドリングストップ	◎	○	
ICT施工の活用	◎	◎	
環境配慮建設機器の利用	○	○	
○プロパンガスの削減			
洗い物は纏めて洗う	◎	◎	全体的によくできて いると思われる。今 後も継続が必要であ る。
給湯器止め忘れに注意	◎	◎	
冬場の給湯は暖房用ストーブを使用(現場)	◎	◎	
○一般廃棄物の削減			
コピー用紙の両面使用	◎	◎	全体的によくできて いると思われる。今 後も継続が必要であ る。
文書の電子化(クラウド利用)	◎	◎	
使用済み封筒の再利用	◎	◎	
ゴミの分別の徹底(缶・ビン・プラスチック・電池)	◎	◎	
使用済用紙の資源化(廃品回収)	◎	◎	
○産業廃棄物の削減			
簡易包装の商品を優先購入	◎	◎	当初より削減の意識が出 てきた。 さらなる分別の徹底を再 度周知が必要である。
計画的な資材の発注を行い、残余資材発生を防止	◎	◎	
がれきの分別の徹底(金物)	○	○	
○節水			
水圧・水量の調整(元栓を調整)	◎	◎	全体的によくできて いると思われる。今 後も継続が必要であ る。
節水の励行(コップ・バケツ等の利用)	◎	◎	
水量を減らす工夫(節水こま等)	◎	◎	
洗車を最小限に留める(汚れたときのみ洗車)	◎	◎	
○社会貢献			
会社周辺の清掃(年1回7月度)	◎	◎	当初より社会貢献の意 識が有り良く出来た。
町内会への活動協力(町内会依頼時)	◎	◎	

※ 年2回環境管理責任者が達成状況を確認し評価する。

10. ■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

○:守られた ×:守られなかった

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	評価
建設業法	適切な建設業の運営	○
労働安全衛生法	労働者の適切な安全衛生管理	○
廃棄物処理法	産業廃棄物の適正処理	○
建設リサイクル法	建設工事におけるリサイクル・処理の推進	○
オフロード法	排出ガス対策型建設機械の使用促進	○
再生資源利用省令	再生資源利用促進	○
道路交通法	車両整備・交通ルール厳守	○
騒音・振動規制法	騒音・振動の管理及び処置	○
大気汚染防止法	土砂の堆積場届出・石綿除去工事届出	○
水質汚濁防止法	水質汚濁防止の適切な処置	○
消防法	喫煙所及び適切な火気の管理	○
自動車リサイクル法	車両の適切なリサイクル・適正処理	○
家電リサイクル法	テレビ・エアコンなどの適正廃棄	○
フロン排出抑制法	パッケージエアコンの簡易点検(3か月毎、目視チェック)	○
浄化槽法	定期点検・清掃、法定点検の実施	○

環境関連法規等の遵守評価の結果	令和6年6月27日に環境管理責任者が対象施設の管理状況や記録類を確認したところ、適用される法規を全て遵守している。
-----------------	---

11. ■違反、訴訟等の有無

過去3年間に於いて、違反、訴訟等はありませんでした。

12. ■代表者による全体の評価と見直し

【環境経営目標への取組】

電気及びプロパンガスの使用量は昨年より増加したが完工高当たりの使用量は目標を達成している。

ガソリンの使用量及び完工高当たりの使用量は増加している。これは、営業車の増車によるものとおもわれる。

二酸化炭素排出量合計は、排出量及び完工高当たりの排出量共に増加している。これは、上記及び災害復旧対応により稼働日数が増加したためであり、一時的だと思われる。

水の使用量が大幅に減少しているのは、トイレの漏水が改善したためである。

引き続き環境活動の取組計画を実行する。今後も1%削減を継続する。

【環境経営活動への取組】

少しずつ意識が高くなっていると思われる。今後も継続が必要である。

【環境関係法令等の遵守】

環境関係法令等は遵守されている。今後も継続して行う。

【総合】

安全大会において従業員に環境への影響に対し意識を持たせ、取組計画・行動目標を理解させる。

環境経営方針・環境経営計画・環境経営システム・実施体制は今後も継続する。また、環境目標は前年度の完工高当たりの使用量1%削減を目標とする。

■ EA21活動履歴

年度	改善箇所	改善活動	改善効果
2013	EA21取得準備委員会設置	委員会を設置し、環境活動組織を整える。	各部署から部門長を選任し活動体系が整った。
2014	EA21取得、EMS制定	環境経営方針・行動方針を定め、環境経営活動に取り組む。	全社員の環境意識が向上した。
	上水道節水改善	蛇口に節水コマを取り付けた。	上水道の節水が出来た。
2017	社有車の高燃費車導入	ハイブリッド車を導入した。	ガソリンの使用量が削減された。
2018	ミニバックホウ導入	排出ガス対策型3次基準指定機の導入。	温室効果ガスのひとつである窒素酸化物が削減された。
2020	LED照明を導入	本社の蛍光灯をLEDに交換した。	電気の使用量が削減された。
2021	ミニバックホウ導入	排出ガス対策型3次基準指定機の導入。	温室効果ガスのひとつである窒素酸化物が削減された。
	社有車の高燃費車導入	ハイブリッド車を導入した。	ガソリンの使用量が削減された。
2022	エアコンを入替	本社のエアコンを省エネタイプに入れ替えた。	電気の使用量が削減された。
	バックホー0.4導入	排出ガス対策型3次基準指定機の導入。	温室効果ガスのひとつである窒素酸化物が削減された。
	バックホー0.7導入	排出ガス対策型3次基準指定機の導入。	温室効果ガスのひとつである窒素酸化物が削減された。
	ユニック車の導入	H27年燃費基準10%向上達成車の導入。	軽油の使用量及び窒素酸化物が削減された。
	ダンプ4tの導入	H27年燃費基準10%向上達成車の導入。	軽油の使用量及び窒素酸化物が削減された。
	ダンプ10tの導入	H27年燃費基準5%向上達成車の導入。	軽油の使用量及び窒素酸化物が削減された。
2023	社有車の高燃費車導入	ハイブリッド車を導入した。	ガソリンの使用量が削減された。